

命かがやく

水ぬるむ3月。オオイヌフグリの青い小さな花が草むらを彩り、チヨウが舞い、池ではヒキガエルが産卵を始めます。3月も末となれば満開のコブシが春たけなわを知らせます。花

も昆虫も鳥も、生命が躍り出すような時期です。やがて5月の連休の頃にはまぶしいほどの新緑が長田谷津を覆います。バラ園は5月下旬が見頃です。

(3~5月)



冬を越したルリタテハ(3月)



温んだ湧水に自生するクレソン(3月)



黄色が目染めるキショウブ(5月)

光あふれる

空模様がよくつく梅雨も自然の世界では、植物の育つ大切な時期。ネムノキやハンゲシヨウが美しい花を咲かせ、7月の下旬には、ヘイケボタルの観察会も行われます。花の少ない夏の草原にミンハギの紅紫色が目立ちます。

そぐ谷に、風をとらえて飛ぶオニヤンマの姿を見ることが出来ます。例年、7月の下旬には、ヘイケボタルの観察会も行われます。花の少ない夏の草原にミンハギの紅紫色が目立ちます。

(6~8月)



小さな花が集まって咲くミンハギ(7月)



夏の象徴オニヤンマ



湿地帯に咲くイボクサ

長田谷津の四季ごよみ

長田谷津を生かした大町自然観察園は、豊かな自然の宝庫です。湧水が作り出した湿地やアシ原を生かした池やバラ園、周囲の斜面林が、変化に富んだ風景を見せてくれます。そんな長田谷津の二年を、紹介します。四季の移り変わりに素晴らしい年を願いながら、ゆくり今年計画を立ててみませんか。



人気者のカワセミ(9月)



色鮮やかなムラサキシギブの実(11月)



幼虫の食草はジュズダマ クロノマチョウ(11月)



宝石のようなジャノヒゲの実



成虫で冬を越すウラギンシジミ(12月)



冬はよく目につくメジロ(1月)

空澄みわたる

高くなった空と浮かぶ雲に、秋を感じます。秋の野草を探しながら散策する途中に、鳥たちが木の葉をついばむ愛らしい姿を見ることが出来るかもしれません。10月ともなれば、昆虫たちは次の季節に向けて

て準備を始めます。オオカミキリやアカアキアカネが産卵するのもこの頃です。朝晩ぐつと冷え込む11月になると、水辺から始まった紅葉はだんだん斜面林、もみじ山へと移ってゆき、冬鳥たちも姿を見せます。

(9~11月)

枯れ野に光さす

霜が降り、冬が到来した長田谷津を、メジロが忙しそうに飛び回っています。絶えず水の流れる湧水は、ニホンズイセエビが枯れ野に色を添えます。冬眠していたカエルも、目を覚まして氷が張る日もあります。立春を過ぎ、長田谷津に再び春が訪れます。

ぎる頃になると、光の春を予感させる日も増え、フキノトウが芽を出し、ニホンズイセエビが枯れ野に色を添えます。冬眠していたカエルも、目を覚まして氷が張る日もあります。立春を過ぎ、長田谷津に再び春が訪れます。

(12~2月)